

# 道徳教育と生活指導



★道徳教育ということが、今日教育界の大きな関心事となっています。けれども、はたしてどれだけの人が、確固たる信念を持って、このことにとりこんでいるでしょうか。修身科を復活することによってこれができると考えたり、それを否定することによってこと足れりとするのではなく、幼児教育においても、もっと真剣にとりあげられねばならない問題です。道徳教育には新しい内容がもらねばなりません。即時の解決や結論を求めるのでなく、ともにより良いものを創りだすために努力していきたいと思えます。

## 生活指導と道徳

土屋真砂子

しました。

生活指導の中に育つ道徳

幼稚園における生活指導と申せば、まず第一に基本的習慣の形成、いわゆるしつけという狭義の面が考えられます。次には保育すなわち生活指導すなわち生活全体を通して望ましい性格の形成を目指す広義の場合が考えられます。幼稚園教育要領に示された保育項目について申せば、健康および社会が生活指導の核となるのではないでしょうか。

いずれにせよ幼稚園教育の内容のすべてがそうでありますように、この生活指導に

はじめに

幼稚園での生活指導において、道徳教育をどのように考えるかという問題をいただきました。道徳低下の世情に自らの生活を苦しむとともに、そうした家庭環境・社会環境に育つ幼児たちを、どのように指導したらよりよい幸福な社会の建設に役立つだろうか、保育の明け暮れになやみつつけ

ておりますので、大変よい勉強の機会だと

喜んでいました。ところが机に向ってみますと、問題はなかなかむずかしく、ほん少しも進みません。ただ私の狭い道徳観の中で、つたない生活指導観の中で、日常行つてまいりました保育をかえりみまして、道徳教育につらなる生活指導の一端をここに記し皆様の御指導を仰ぐ機会といた

あたってはとくに、基本的習慣を型どりにしつければよいとか、おとなの世界の道徳観に立つ項目を挙げて、かくあるべしとしこむというのではありません。どこまでも遊び中心の幼児の世界での経験過程を重んじ、幼児ひとりひとりの発達段階にふさわしい誘導を加えて、繰り返し繰り返し行われる生活の中に、形成し、また方向づけていくことが本体であることはここに申上げるまでもないことです。

道徳は生活の中に生き、生活の中につくり上げられていかなければならない。すなわち学ぶ道徳よりも、つくりあげていく道徳、これが新しい道徳観であるという立場に立って考えますと、幼稚園においてよりよい生活指導をいとなめば、結局幼稚園における道徳教育は達成されていくのではないかと考えました。

**魂のこもった環境**  
よき保育者は、幼児の一般の発達原理を極め、担任する幼児たちの個々を観察し、それにふさわしい保育計画を立案するとともに、その目標に向かって周例な環境構成を行います。幼児たちがこの環境の中でどの

ように自発的に旺盛な活動をするか、その姿をつぶさに観察し機に乗じて誘導を加え、教育的な活動へと保育を展開させていくことでしよう。このように考えてまいりますと、先生の創造する新鮮な環境は幼児の魂の教育に大きな役割を果すものであります。

たとえばいつもほうき目美しく掃き清められた園庭、子どもと一しょにつくったきれいなお花畠、玄関には小鳥がさえずり、金魚が泳いでいるとしたら、毎朝登園する子どもたちは何となく、ああいい気もち、落した紙屑も拾いたい、お花さん小鳥さん金魚さんおはようと話しかけたい気もち、こんなところに先生と幼児の魂は間接にふれ合い道徳の芽が伸びていくのではないでしょうか。

廊下にかげられた大きな鏡、常に曇りなくふき清められ鏡の本領を発揮しているとしたら、その前に立つ幼児は自然に鼻汁をぬぐい、絵の具にそまつた顔を洗い、怒った顔もほころぶというよい心が育つのではないでしょうか。

窓に飾った鉢植の花が、水が絶えずが割

れ、枯れ果ててもそのままとしたら、そこには美を愛する心も、生命を尊ぶ心もふみにじられていくことになるでしょう。

きたない手洗い場や、こわれた水栓では、ていねいに手を洗う意欲も起らないことでしよう。おとぎもようの紙屑箱やちりとり、小さなほうきやきれいな雑巾が、きまりよく準備されていたら、掃除ごっこをしよう、みんなで片づけようという共同遊びも育つことでしよう。

**にじみでるものの感化**

子どもは母親の鏡であるとか。家庭生活において母親の幼児におよぼす影響が大きいように、幼稚園では保育者たちの無言の姿からにじみ出るふん囲気の感化がまことに大きいものであります。

いかによい保育計画をもったとて、教師の生活態度が、いつも上靴のかかとをつぶしてはいている、机の上が乱雑になっているなどと清潔や整理整頓にあまりにも無頓着であるとしたら、保育の上にもそれが現われてきます。

園内がそのまま共同生活であるのに、自分のクラスのことだけしか考えない利己主

義の教師であれば、それが幼児にもうつり、他の組との協調がなかなかうまくいきません。

忙しい朝の仕事の中から、いちいち明朗なおはようのできる先生や、おもしろしでもにこにこそっとしまつしてくれる先生、けんかをして手を握って言い分をきいてくれる先生、明朗で愛情こまやかな先生のもとには、素直な級風が育ちます。

理想の先生の条件をあげれば限りないことですが、とにかくお互が園全体の幼児の母としてなごやかに協同し、他の長を認め、己が疑を補い、日に新に伸びんとする至誠実践の生活態度の持主でありたいものです。

### 生活記録から

#### 三歳児

A子ちゃんはおばあちゃんっ子。お母さんは病身の弟に手がかかる。おべんとうがはじまったがどうしてもひとりで食べる気がない。少しもはずかしい気配もなく口をあけて先生に食べさせてもらうありますが、第四日目にH子ちゃんが、今日は私が食べさせてあげるといって、自分が終ると

すぐ食べさせてあげる。そしてついに自分の口へも運んでしまった。それでも二人ともごく自然な気もちなのでそっとしておく。第五日目に、ゆうべは望遠鏡でみんな上手にお家で食事しているのをみたがとても立派だったという話をする、それにつられてかA子ちゃんも上手にひとりで食べる勇氣をもち出した。

食べさせてもらう人は赤ちゃんだね。

食べさせてもらったらありがとうするんだね。

人のおかず食べちゃおかしいね。

A子ちゃんやっぱりいい子でよかったね。

こんなことばをボツリボツリ私にささやく子もいたが、ほとんどの子は見てはいるが無関心の態。食べることは大体よく集中するが、がんばりやの二、三をのぞいては、みんなお手つだいして片づけをした。この年齢の子どもには、何事も、気長に根気よく個々に接して、勇氣づけつつ、遂行させることが指導のこつでありましょうか。

#### 四歳児

小鳥小屋も鳩小屋も数字かきが二日も続

いて紛失した。おとなでも決った数字に合わせるのが困難なのに、先生どうし不思議なことだと話し合っていると、あれは梅組さんですよとささやく女の子がいる。正直な子は出してくださいますよと暗示を与えれば、雑草園の中から二日も拾って来てくれた。

松の落葉を焚いてそのまま昼食にした。

食後の庭から女の子たちがかん高い声をあげて逃げて来た。梅組の猛者が揃って残り火の中で生殺しに焼いた松毛虫を棒の先につけ女の子を追いまわしているのである。やっぱり梅組さん。

園内に起った破天高ないたずらは大い梅組さん。三歳組一年で大体集団生活が自分のものとなり、基本的習慣も一応身についたので、自信と勇氣をもって何事にも活潑に働らきかける。しかも三四人の小グループで。

この年齢では自分の力をためそうとして、かえって迷惑をかけるようなことをやってしまう時代でしょうか。叱ったり、小言をいったりすると、かえって反抗してきますので、そろそろ判断させながら信頼感

をよせて頼みかけるようにして、よいおこないの集団的な方向づけをしてはいかがでしょうか。

### 五歳児

T君は頭脳も行儀もよく何事にもできばえ上々、けれどもいつも人の機嫌をうかがっているような眼なごし、男の子らしい元氣も迫力もない。善悪の判断が極めて早く損だと思ふことには決して手出しはしない、共同的な作業などではいつの間にかふうっと姿をくらましてしまふ、ときには僕そんなこと悪いことだつてことお母さんに教わつたもの、だから仲間にははいんないよ。などといつてゐることもある。

お母さんの家庭教育ぶりをうかがつてみ

## おはなし・劇あそびを とおした幼児の生活指導

昨年二月頃だつたでしょうか。もうじき一年生になろうとしている子どもたちでしたが、ちょっとしたことから面白いはずの雪合戦がけんかに発展してしまつた時の

ると、実にしっかりとした道徳的なしつけ主義で禁止教育をやつてゐるのです。

そこでこのお子さんの自由を尊重した解放教育が目下の急務であることについてお話し合ひをいたしました。賢明なお母さんは喜んで、協調してくださいました。時々解放のがまんのつらさを訴へることもありすが、それでも明朗に、活潑に、思ひきつて誰とでも遊べるようになってきたことを喜んでおられます。

年長組ともなれば、大いに、社会生活の規律や集団の行動などに重きをおき、社会性のよりよき発達の素地に力をいたすべきでしょう。

(日出学園)

### 鈴木正子

ことです。

原因を聞けばAのつくつた雪だるまをBがこわしたというのです。BはAが先に意地悪したからこわしてやったのだと言つて

ゆずりません。二人のうえにそれぞれの加勢がくわつて大変なことです。お互いが許し合うなどとんでもないことらしく、みんなで仲良く遊びましょう」などと言つても聞きつけない状態ではありません。そこで私はあそびを変えて、二、三の子どもを誘つて室に入って紙芝居を始めることにいたしました。

私が室にはいつてしまつと、けんかで興奮した子どもたちもみんなついてはいつてきました。これは子どもたちも私も大好きな紙芝居のひとつなのです。

あらましを書いてみましょう。

『ある山の中にごんべえという意地の悪いおじいさんが住んでいます。山の動物たちは、すぐ鉄砲をむけてかれらをおびやかすこのおじいさんを、おそれ憎んでいます。ある雪の日のこと、おじいさんが、なだれにやられて死にかけるのです。動物たちは、いい気味だとよろこびます。』

けれど雪に埋れて眠つたようになっていつともちがうおじいさんのやさしそうな顔をみているうちにふと氣の毒になつてきます。そして雪の中からおじいさんを掘